

根室の農業

－ 概要編 －



令和4年（2022年）3月

北海道根室振興局

2 根室の農業の歴史

(1) 始まり

管内の農業は、明治2年に開拓使根室出張所が設置され、松本十郎判官が移民百余名とともに入植したのが始まりです。明治19～22年にかけては、和田屯田兵村に440戸が入植し、穀菽^{注1}農業と馬産が開始されました。明治30年代から運搬用、駅通用として根室馬産は大いに繁栄し、厚床には当時東洋一と言われた家畜市場が創設されました。昭和に入ると、軍馬の需要が高まり、農林省根室種馬所や陸軍省軍馬補充部が設置されました。

牛の飼養は当初、肉牛主体でありましたが、日露戦争後の恐慌による明治43年の肉牛価格の大暴落を契機として、乳牛飼養へ転換されました。練乳やバターなどの乳製品製造も明治20年代に開始され、管内には昭和21年まで6箇所^{注2}に乳業工場が設置されました。

しかし、これら根室農業の黎明期は、度重なる冷害凶作のため穀菽農業から主畜農業への転換を余儀なくされた時期でもあります。

(2) 根釧パイロットファーム、新酪農村建設事業から現在まで

昭和31年には、根釧パイロットファームの入植が始まり、昭和39年までに約5,000haを開墾、約360戸が別海町（美原・豊原）に入植し、ジャージー種の導入が始まり、根室酪農の基礎が築かれました。しかし、オーストラリアから導入されたジャージー種は長距離輸送による栄養低下のため体調不良なものがあり、さらにブルセラ病^{注2}に感染していたものもいたことから、この病気が大発生し、経営は厳しいものとなりました。

昭和41年には、加工原料乳不足払制度が発足するとともに、第1次酪農近代化計画が樹立され、経営の近代化・合理化をめざす体制づくりがなされました。

その後、昭和48年から58年にかけて、根室市、別海町、中標津町の区域で、新酪農村建設事業が行われました。約1万5,000haの農地造成と200戸以上の入植が行われ、先進的大型酪農経営が展開されるようになりました。しかしながら、この急速な規模拡大の影



には、多額の負債、乳価や個体価格の低迷、市場の国際化、過重労働、労働力不足、環境への影響の懸念など、酪農をとりまく環境には厳しいものがありました。

昭和58年から酪農負債整理対策の実施や機械化・大型化により酪農経営は安定してきました。近年では、酪農ヘルパーやコントラクターに加え、各地でTMRセンター^{注3}が設立されるなど、営農支援システムの活用による省力化の取組が進められています。また、畜産クラスター事業等の活用により、フリーストール牛舎や搾乳ロボット等を導入して規模拡大を図る動きが進展しています。

現在の1経営体当たりの経営規模は、耕地面積で全道平均の約3倍に当たる約84ha、乳牛飼養頭数も約156頭と規模が拡大しています。

注1) 穀菽(こくしゆく)・・・穀物(稲や麦など)と大豆

注2) ブルセラ病・・・牛、豚、羊、人などに感染して、特に牛では伝染性の流産を引き起こすことから、家畜伝染病に指定されている。

注3) TMRセンター・・・サイレージ、とうもろこしなどの飼料、ミネラル等を混ぜ合わせるにより、牛に必要な栄養素を全て含んだ完全飼料を構成員に供給するしくみ(TMR=Total Mixed Ration)

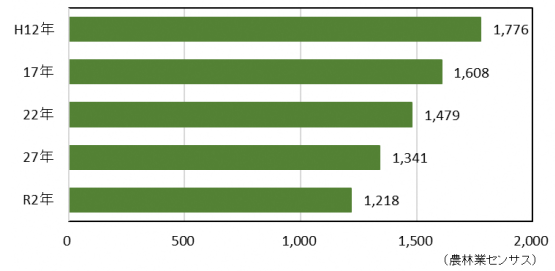
3 管内の農家戸数及び農業就業人口年齢構成

農家戸数は、規模拡大や高齢化に伴う離農等により減少傾向が続いており、令和2年は1,218戸で平成12年の1,776戸と比べ約558戸、約3割も減少しました。

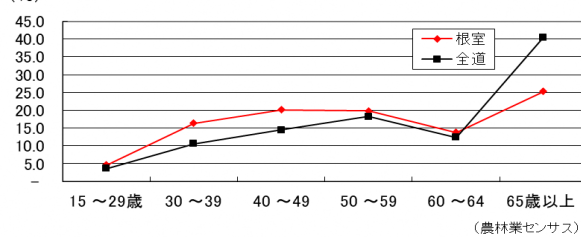
管内の農家は、経営農地50ha以上の農家が多いのが特徴で、約8割を占めています。

また、農業従事者の年齢構成を見ると、全道平均と比べて若年傾向にあり、65歳以上の従事者の割合は全道平均を大きく下回っています。

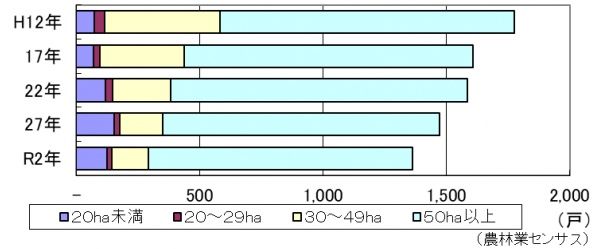
農家戸数(販売農家)の推移



基幹的農業従事者構成年齢構成(令和2年)



経営規模別農家割合の推移



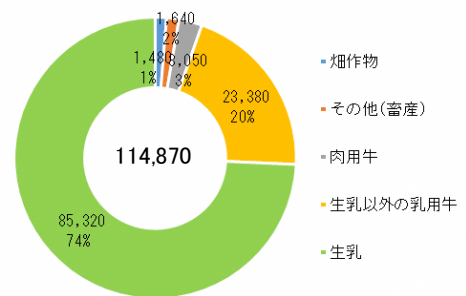
4 管内の農業生産

(1) 農業産出額

令和元年の農業産出額は約1,148億円となっています。品目別で見ると、生乳が農業産出額の74%を占めています。生乳以外の乳用牛も含めると94%を占め、まさに酪農が根室農業の基幹と言えるでしょう。

(令和元年市町村別農業産出額(推計)より)

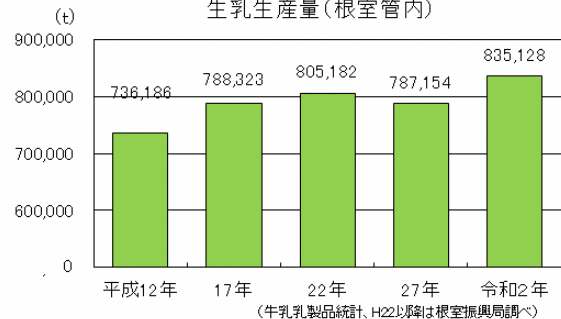
農業産出額(令和元年)(単位:百万円)



(2) 生乳生産量

管内の生乳生産量は、約80万トン前後で推移しており、全国生産量の約1割、全道生産量の約2割を占めています。また生産量の約1割が道外に移出されており、関東方面への生乳輸送船として、平成5年7月に「ほくれん丸」、平成9年6月に「第二ほくれん丸」が釧路・日立間にそれぞれ就航し、平成31年春には更なる大型化と燃費向上を果たした新鋭船に入替され、毎日輸送されています。

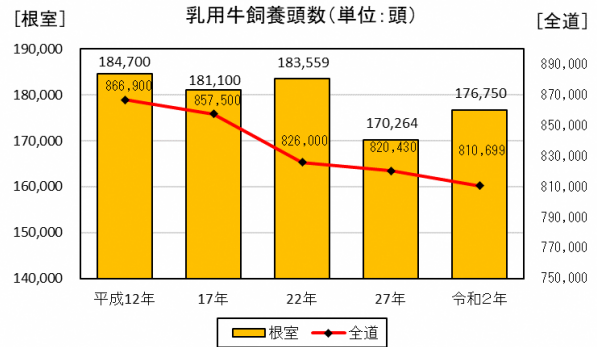
生乳生産量(根室管内)



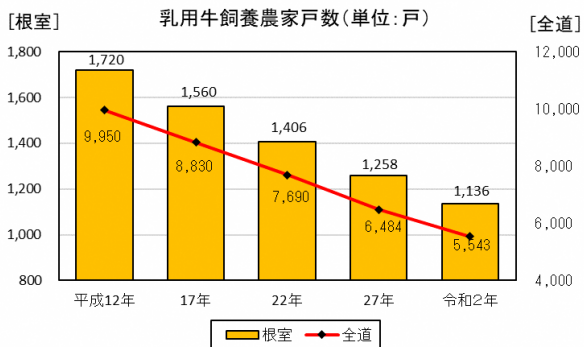
5 管内の飼養状況

令和2年の管内における乳用牛飼養頭数は、176,750頭、飼養戸数は1,136戸となっており、1戸当たりの飼養頭数は155.6頭となっています。

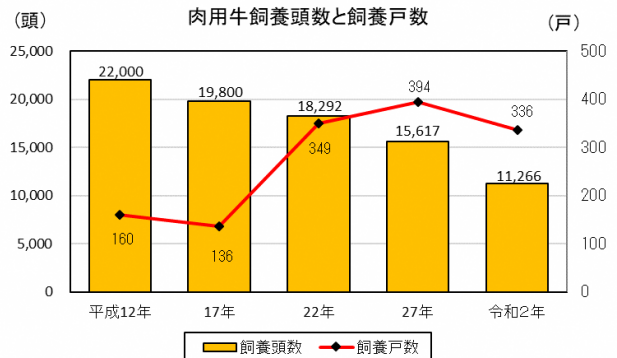
また、肉用牛を主体とする畜産も行われており、乳用種（雄ホルスタイン）のほか、黒毛和種や短角種の飼養も行われています。



(農林水産省「畜産統計」、H27以降は農林業センサス)



(農林水産省「畜産統計」、H27以降は農林業センサス)

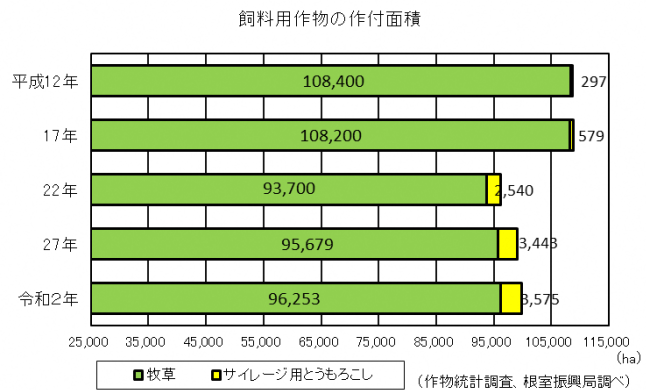


(農林水産省「畜産統計」、H27以降は農林業センサス)

6 管内の作付動向

酪農が大半を占める地域特性から、作付けの大部分が飼料用作物となっており、牧草がほとんどを占めています。

新たな極早生品種が北海道優良品種に登録されたこともあり、別海町や中標津町など比較的積算温度の高い地域において、サイレージ用とうもろこしの作付けが増加しています。

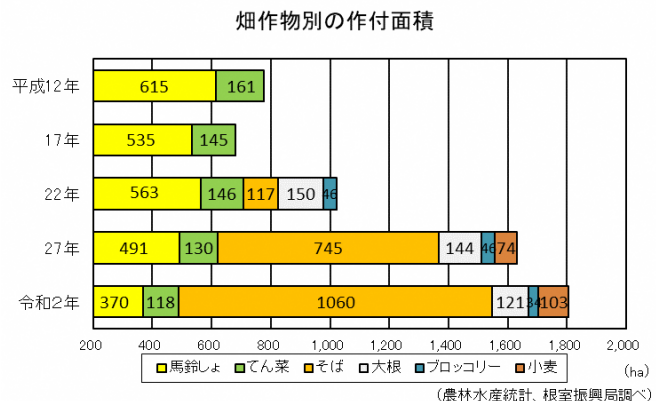


(作物統計調査、根室振興局調べ)

飼料用作物以外では、中標津町を中心に畑作物が作付けされています。

澱粉工場の統合により、馬鈴しょ作付けは減少しましたが、そば、大根、ブロッコリー、小麦が新たに作付けされるようになり、畑作物全体の面積が増加しており、特に近年はそばの作付けが増加しています。

収穫された畑作物は、地元のほか道外に出荷されているものもあります。



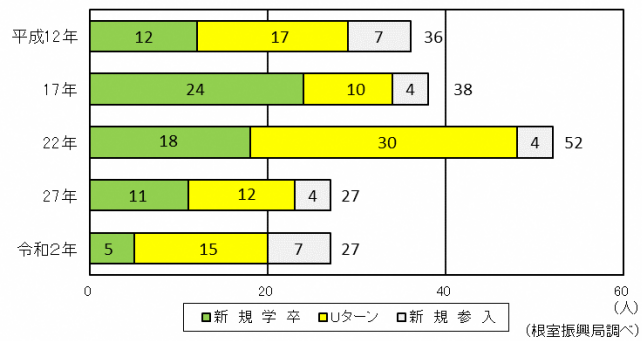
(農林水産省統計、根室振興局調べ)

7 担い手の育成

管内の農業従事者は、60歳以上の割合が全道より低い一方、59歳以下の割合が高く、比較的若年傾向にあります。管内でも高齢化や後継者不足等による離農が進んでおり、さらに新規就農者数も減少していることから、農業の担い手の育成・確保は重要な課題となっています。

別海町の酪農研修牧場をはじめ、管内の市町・農協は独自の補助制度や後継者対策などの担い手対策に取り組んでおり、振興局においても、新規参入者の相談役となる農業者の認定を行う就農トレーナー制度を実施しています。

新規就農者数の推移



8 生乳加工施設

管内では、大手乳業メーカーの乳業工場のほか、第3セクターや個人経営の生乳加工施設があります。大手乳業メーカーの乳業工場は、バター、脱脂粉乳、チーズを中心とした製造品目、その他の加工施設では、1村1品的な販売を目的にした飲用牛乳、アイスクリーム、チーズなど多彩な製品が製造されています。

市町	施設名	主な取扱内容
根室市	チーズ工房 chikap(チカプ)	チーズ・ソフトクリーム
	明郷☆伊藤牧場 レストランATTOKO	飲用乳
別海町	明治西春別工場	粉乳・バター・クリーム・濃縮乳
	森永乳業別海工場	チーズ・脱脂粉乳
	雪印メグミルク別海工場	バター・粉乳・脱脂濃縮乳
	べつかい乳業興社	飲用乳・バター・チーズ・アイスクリーム・ヨーグルト
	河崎牧場チーズ工房	チーズ
	なかやまミルク工房	チーズ
中標津町	雪印メグミルクなかしべつ工場	チーズ
	中標津町畜産食品加工研修センター	チーズ
	JA中標津乳製品工場	飲用乳・飲むヨーグルト・クリーム
	ラ・レトリなかしべつ	チーズ・アイスクリーム・発酵乳
	乾牧場	山羊乳(乾乳期(12月～3月頃)は販売休止)・山羊チーズ
	養老牛放牧牛乳(山本牧場)	飲用乳・ソフトクリーム
	竹下牧場	チーズ
みるふちゃん工房	チーズ(牛乳豆腐)	

根室の農業 一概要編一 令和4年(2022年)3月発行

発行・編集 北海道根室振興局産業振興部農務課
 〒087-8588 北海道根室市常盤町3丁目28番地
 TEL 0153-24-5714
 FAX 0153-23-6183